

令和3年3月発行

広尾っ子応援団だより (No.37)

広尾っ子応援団本部事務局（教育委員会社会教育課）電話 01558-2-0181



広尾中、豊似小の重点教育目標等を承認

広尾中、豊似小の学校運営協議会において、令和3年度の学校運営の基本方針(教育課程、学校経営計画)を承認しました。

【解説】

○ 広尾中学校の重点教育目標

自ら課題を見つけ、自ら考え、最後まであきらめずに取り組む生徒

○ 育成を目指す資質・能力

芸術教科の持つ豊かな感性を育む教育の中で、授業での活動の楽しさを味わいながら基礎・基本となる知識を深め、技能を習得する。（知識及び技能）

身に付けた知識・技能を活用し、各教科で課題解決に向けて話し合い活動を通して思考し、その取組を通して判断し、学びの成果を分かりやすく表やグラフ、ポスター、パワーポイントにまとめるなどして工夫して表現する力を育む（思考力、判断力、表現力等）

情報を精査し、自ら問題を見いだす活動を積み重ねながら、自宅学習につなげたり、将来の夢を持ちながら自己実現や自己の成長に向けて真摯に学習活動を進めていく力。（学びに向かう力、人間性等）

○ 豊似小学校の重点教育目標

学びに向かう力を磨き、基礎基本の定着と深い学びを追求する児童

○ 育成を目指す資質・能力

重点教育目標達成のため、教科の見方・考え方にに基づき、物事を伝え合うために必要な国語を正確に理解し、適切に表現する知識・技能を高める。（知識及び技能）

言葉による見方・考え方を働かせ、「対話的な活動」を充実させることで、主体的・対話的に伝えあう力を高め、思考力・判断力・表現力を身につけ、深い学びに繋げる。（思考力、判断力、表現力等）

「対話的な活動」を充実させることで言葉による見方・考え方を働かせ、自他共の良さに気付き、自己肯定感を高め、自ら主体的に関わろうとする態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）

重点教育目標

学校運営協議会委員の意見を聞いた上で立てられた各学校の目標です。

学校は、この目標の下で新年度の教育活動を重点的に改善します。

育成を目指す資質・能力

重点教育目標を目指す中で、子どもたちに育てようとしている力です。3つの観点で示されています。

学校には、多岐にわたる教育内容の中でも、優先度の高いものを具体的に示していただくようお願いしています。

【解説】「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」は、授業の目標や評価の観点として、全国で共通に使われています。

重点教育目標を観点に「教育環境」を意見交換

重点教育目標を受け、学校運営協議会は「地域・家庭の方策」の検討に移りました。その第一段階として、地域の教育環境について意見交換を行いました。

		学校の教育環境	地域・家庭の教育環境
広尾小	強み	町内在住の教員が多い、親身・若い教員、友だち的、児童数が少ない、ペア学習など意見交換が容易、自分の考えをもち、発表の機会が豊富、グループ活動が容易、ふるさと給食が充実	水野アサ、伝統文化を知る高齢者、人生・生き方を語る人、小さな町、家族の時間がある、助け合いがある、多くの経験ができる場や機会、優しい言葉かけ、海が見える、魚が身近、自然が豊富、歴史（神社、近藤重蔵）
	弱み	厳しさが少ない（教員）、言葉での確認不足（児童）、コロナによる地域住民との交流の制限、見学学習の制約（新聞社、美術館）	サービスや資源が少ない、うわさに流されやすい、些細な事に敏感な保護者、津波の危険、自分の意見を十分に伝えない、しつけの仕方が分からない、親の言葉が乱れ傾向、家庭の会話が不足、自然を生かしていない
豊似小	強み	間接指導、友だちと先生との関係が密、小規模（学年の区別なく会話、勉強が分からないまま進まない）上級生が下級生に優しい、自分たちで行動できる（児童会、リーダー）、少人数（コロナの状況でも活動ができる）	地域の語り部がいる、地域のことをよく知る住人が多い、うさぎや鹿など野生の動物が身近にいる ※ 目指す資質・能力の「対話的な活動」には「言葉以外のものも大切」という意見がありました。
	弱み	小規模で人間関係が固定化、1年サイクルの教育課程、少人数（内弁慶の傾向）	大人と子どもの接点が少ない、豊似地区だけで生活する子どももいる（敬語や挨拶が育たない）
広尾中	強み	学校数が絞られる（少ない）、ICT機器、放課後の話し合い、タブレット、体育祭・文化祭、ホワイトボードの使用、キャリア教育、生徒会活動、	家にいる（親と接する）時間がある、各種団体・事業所の支援・協力が得られる、環境学習に適した自然、家庭・地域で挨拶する環境、通学時間が短い、農・林・魚と課題を設定する材料が多い、自然が豊か
	弱み	討論の力、話をさせる時間不足、話をうのみにする傾向、リーダー任せ、課題を与えてもらう傾向、学習意欲、若い職員が多い、中堅教員が少ない	多様な仕事に触れる場、大人の学び方を見る機会、過保護、刺激が少ない、親が先回りして答えを与える、失敗させないようにする、外で学ぶ環境（カフェ、コワーキングスペース）、外部講師

※ 詳しくは広尾町公式ウェブサイトに掲載